9月25日の告別式でホ号棟管理組合を代表して真野 源吾さんが以下の弔辞を読まれました。

弔辞

故、多摩川住宅ホ号棟管理組合理事長 藤野馨様に、管理組合を代表して、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

理事長、あなたの急逝の報に接し、私たちは大きな悲しみに包まれております。9月20日の日は、事業協力者のヒアリングを朝から元気にやって頂き、その晩急に倒れられ救急車で杏林病院に運ばれ手当てのかいもなく誠に残念ながら、ご逝去されました。誰が想像したでしょうか。今でも、いつものように「よっ！元気。」と優しい微笑みで話しかけられるのではないかと思えてなりません。

あなたは、ホ号棟が出来た昭和43年当初から、ここ染地に、かわいらしい奥様と新居をかまえ、苦労を分かち合いながら、4人のお子さんを立派に育て上げられました。ホ号棟が管理組合になった平成16年から監事として、平成18年から理事長として足かけ8年、我々住民のためにご尽力なされました。また、平成19年の街づくり準備会から通算8年、多摩川住宅全体の街づくり協議会の会長として、ご高齢にもかかわらず、何とか地区計画を造り上げるのだという強い信念で、みんなの意見をまとめるべく奔走して頂いておりました。本当にありがとうございました。深く、深く感謝申し上げます。

ホ号棟の建替えの検討は、今も続いております。熱意をもって、全体をまとめる見事な手腕と温厚なお人柄で、団地まつりなどの様々なイベントやタマリバ委員会などの交流行事もまとめ上げ、地域コミュニティづくりを続けてこられました。やっと案がまとまってきた、これからという時にこのような事になり、さぞ無念でならないと思います。

建替え検討の今後につきましては、検討会一同、理事長の精神をしっかり受け継いで、住民全員が安心して住み続けられる住宅の建設に向けて、誠心誠意努力して参りますことを、ここにお約束致します。どうか安心して下さい。本当にお疲れ様でした。
おいしいワインを飲みながら、ごゆっくりお休み下さい。最後に、生前の御尽力に重ねて深い感謝を捧げ、心より御冥福をお祈り申し上げます。

平成26年9月25日 ホ号棟管理組合代表 真野源吾